

## イラクの文化遺産の現状

松本 健

The State of Iraqi Cultural Heritage

Ken MATSUMOTO

### イラク戦争勃発

2003年3月20日、イラク戦争が勃発し、圧倒的軍事力を有する米英軍は4月9日バグダッドを制圧した。しかし4月12日、イラク国立博物館が略奪され被害総数17万点にもものぼると言う報道が流れた。世界中の人々が驚きとショックを受けた。これに対しユネスコは2度の専門家派遣を行い、その被害調査を行った。またその対応策として専門家の国際会議を3度行っている。

### 文化施設の被害状況

イラク国立博物館：バグダッドに米軍が進軍すると戦火が激しくなり、4月8日博物館員全員が博物館を離れる。4月9日～12日略奪者が博物館に侵入した。4月12日幾人かの博物館員が職場に戻る。4月16日ようやくアメリカ軍が博物館構内に入り警備を始める。こうした経過の中で博物館の展示物や収蔵品が盗まれ、また考古遺産庁の事務所の殆どの事務機器も略奪された。

<展示室>から40点盗まれ、ワルカの大杯（紀元前3200年頃、白石灰岩製）も6月11日に戻され、計10点返還された。その後も上記のIM45434のシュメールの女性像の面やIM77823のアッカド時代のバセトキの座像2点が返還されている。以下盗難にあったイラク国立博物館の主な展示品を挙げると、1. 新アッシリア時代（前850～前750年）の象牙製ヌビア人を襲うライオン、2. シュメール時代（前2500年頃）青銅製牡牛像、3. 頭部のないラガシュのエンテメナ王の石像、4. ハトラの女神像、5. ハトラ出土のポセイドンの頭部、6. 2世紀頃のアポロの頭部。7. シュメール時代の貝の象眼板、8. シュメール時代の男性司祭者石像、9. 新アッシリア時代の象牙製椅子の背もたれ部分の装飾品、10. バビロニア時代の碑文付き国境石など。

<収蔵庫>手当たりしだいに略奪された物が計2939点、そのうちイスラム関係の陶器や家具が167点戻り、その他も2449点戻っている。

<修復室>から盗まれた物は199点、その後の返還が118点。

<地下の収蔵庫>4796点の円筒印章、ビーズ、ネックレス、ピン等4997点、その他小型土器と青銅製武器の500

点など盗まれ、その小計が10,337点、そのうち667点が後に返還されている。

総計13475点略奪された中から総計3411点返還されている（U. S. Central Command, the Joint Interagency Task Force 調べ 2003年9月）。

モースル国立博物館：貴重な物約5000点はすでに戦争前にバグダッドに移送されたが、混乱の中では略奪者がドアを破って侵入した。盗品リストは以下の如く。1. サミ王女の頭部、ハトラ出土、2. バラワトの門に貼られていた銅製の装飾板（30破片）、3. 楔形文字入り焼成煉瓦（3個）、4. 6行の楔形文字入り正方形の焼成煉瓦などである。

イラク国立図書館：バグダッドにある3階建ての建物に、150万冊の本が所蔵されていたがすべて焼き尽くされていた。ただその中の一部はすでに戦争前からどこか安全な



図1 ハトラの女神像（頭部が略奪されている）

場所に移動された。モースル大学図書館 (Mosul University)、バスラ図書館 (Basra Library)、バスラ大学図書館 (Basra University) などとも略奪は免れず、図書、資料、事務機器、コンピュータなど完全に略奪され、また放火されていた。

#### 考古遺跡・歴史的建造物の被害状況

ニップール (Nippur) : 中心部から南5キロほどのところにある低いテルで、楕円形の1~2 m程の深さの盗掘穴があちこちに無数に広い範囲に開いている。

イシン (Ishin) : 広大な都市遺跡に所狭しと2~3 mの方形で垂直に深さ2~4 mの盗掘穴が多数掘られている。周辺にあるビスマイヤやウンマの遺跡も盗掘が続いているとのこと。

ウル、バビロン、キシュなどでは米軍が占拠して軍事基地に使用していることから、遺跡が護られているとも言えるが、遺跡だと認識していない兵士もいることが懸念される。世界遺産に登録されているハトラは米軍が遺跡を警護している。アッシュールは水没の危機にあったが、新たに緊急の世界遺産に登録された。またニムルドも米軍が警備

しているとのことであった。

ニネヴェ (Nineveh) : ネビユニスのもスクの下層のアッシリアの時代の遺構を囲むフェンスは破損している。またセンナケリブ宮殿の遺構の上の覆い屋根はなく、風化が激しく浮き彫りが剥がれ落ちている。またその一部が略奪者によって剥がされ持ち去られている。

ベートル・ヒクマ (Bet el Hikma) : 1938年にイラク国最初の国会が開かれたところであり、またアッバス朝には「知恵の館」として知られた。ここも略奪、放火されて破壊されていた。また隣接するアッバシードパレス (Abbasid Palace) は1230年にウンム・ハビバ (Umm Habiba) の王の館そして学校として建てられた。ここも幾つかのレリーフやタイルなどが剥がされていた。

#### イラクの文化遺産に対する今後の対応

ユネスコを中心にイラク博物館の保存修復の研究室の復興や博物館職員の保存技術の訓練教育、歴史的建造物、文化施設、考古学遺跡における警備及び巡回の強化、危険にさらされている建造物及び遺跡の記録調査の開始などが緊急に求められている。

松本 健

国士館大学イラク古代文化研究所

Ken MATSUMOTO

Institute for Cultural Studies

of Ancient Iraq,

Kokushikan University